

マメナシ(イヌナシ)	<i>Pyrus calleryana</i> Decne.	絶滅危惧 I 類
(環境省:絶滅危惧 I B類)		バラ科
選定理由	県内では産地がごく限られる極めて稀な植物で、一箇所の生育地での消滅が県内個体の絶滅に直結するため。	写真(高野裕行)
形態の特徴	湿った谷に生える落葉高木。葉身は広卵形-卵状長楕円形、鋭頭-鋭尖頭、基部は円形、円鋸歯縁。展葉前後の4月、散房花序に径約2.5cmの6-8花が着く。花筒は卵球形。萼片5、三角形-卵形、全縁。花弁5、白色。雄蕊約20。花柱2-3。果実は秋に黄褐-黄緑熟し、径約1cm、皮目を密生、萼片は落ちる。心皮に種子は2。	
生態的特徴	湿った谷に生える落葉高木。周伊勢湾要素。	
分布状況	台湾、朝鮮、中国南部・中部。県内では県南の南西部に極めて稀。国内では三重、愛知、岐阜に非常に稀に自生する。	
減少要因	湿った谷、斜面が自然または人為的に乾燥化、裸地化、藪化して世代交代が困難になり、生存個体が減少してさらに個体更新が滞っている。確実な開花個体は1個体のみ確認されている。	
保全対策	数少ない生存個体の自生地を確認して保護指定。愛知や三重では天然記念物指定。	
特記事項	岐阜に生育すると思われてきたが、証拠標本や自生個体が見つからず、旧カテゴリーは情報不足であった。1943年と2013年の標本で過去と現在の分布が確認された。実が小さいのでマメナシ、渋くて食べられないため役に立たないのでイヌナシと呼ばれる。本種とヤマナシとの雑種で、葉が鋸歯縁、花柱が3-5、果実は径1-3cmのアイナシ <i>Pyrus</i> × <i>uyematsuana</i> Makino も野生絶滅状態で、植栽される。	
参考文献	岐阜県の植物. 1966. 岐阜県高等学校生物教育研究会編. 大衆書房. Flora of Japan. Volume II b. Angiospermae Dicotyledoneae Archichlamydeae(b). 2001. KODANSHA. Edited by Kunio Iwatsuki David E. Buufford and Hideaki Ohba. Rosaceae 16. <i>Pyrus</i> L. H. Iketani and H. Ohashi	

文責:高野裕行